

公益財団法人リバーフロント研究所の研究発表会をご覧いただきありがとうございます。
リバーフロント研究所では毎年秋に研究発表会を開催してまいりましたが、今年は新型コロナウイルス感染症が流行するなかで様々な制約があることから、今回はオンラインで開催させていただくこととしました。

温暖化にともない水災害が激甚化し水防災分野における防災減災対策がさまざまな新たな課題に直面するなかで、リバーフロント研究所が取り組む河川の環境や生態系、水辺のまちづくりなどの分野においても大きな変革が求められています。

気象現象が激しさを増し、従来型の治水対策だけでは対処が難しくなりつつあるなか、自然との折り合い方を改めて見直し、防災減災と豊かな河川環境の創造、安全で賑わいのあるまちづくり・地域づくり、これらをあわせて実現していくサステイナブルで総合的な地域のソリューションを追求していくことが求められています。

リバーフロント研究所は、技術の革新、現場における実践を通して、このような社会の課題の解決を目指しさらに努力していきたいと思います。

特に、いま社会の総力を挙げて水害の激化に対応すべく「流域治水」の必要性がクローズアップされ、さまざまな取り組みが進められています。

リバーフロント研究所においては、いわゆる「グリーンインフラ」の治水活用という観点から、このような流域治水の推進に積極的に取り組んでまいりたいと思います。

また水害が頻発化・激化する今こそ、河川環境に関わる技術のさらなる進化が求められていると考えます。

リバーフロント研究所が30年以上にわたり取り組み積み重ねてきた河川環境、水辺のまちづくりなどの分野における技術・知見は、このような新たな課題にも大きな貢献ができるものと考えています。

今回の研究発表会においては、このような新たな取り組み展開をテーマに有識者の皆様にミニ基調講演をお願いし、リバーフロント研究所としての今後の進むべき方向性を皆様と共に考える機会としたいと考えています。

視聴いただく皆様には、例年とは大幅に違った方式での開催となることにつき改めてご容赦をお願いするとともに、引き続きリバーフロント研究所の取り組みにご理解・ご支援いただくことをお願い申し上げます。